

手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率 (リスクレベルが中リスク以上)

指標の説明と定義

肺血栓塞栓症は、血栓の大きさや血流の障害の程度によって軽症から重症までのタイプがあります。血栓によって太い血管が閉塞してしまうような重篤な場合には、肺の血流が途絶し、酸素が取り込めなくなり、ショック状態から死に至ることもあります。このため、危険レベルに応じた予防を講じることが推奨されており、対策として、静脈還流を促すための弾性ストッキングの着用や間歇的空気圧迫装置（足底部や大腿部にカフを装着し、空気により圧迫）の使用、抗凝固療法があります。これらの予防策は、「肺血栓塞栓症/ 深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン」に則り、発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者が対象となります。

分子 分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策(弾性ストッキングの着用、間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固療法のいずれか、または2つ以上)が実施された患者数
分母 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

指標の種類と値の解釈 プロセス

グラフ

